

聖書箇所：ピリピ人への手紙 1章1~11節

「喜びの源」

【1】 喜びの手紙

- ・「喜びの理由」と「喜びを奪うもの」
- ・ピリピ人への手紙 = 『喜びの手紙』
  - パウロの獄中書簡(ピリ 1:13)
- ・喜ぶことを選ぶ
  - 感情的な反応ではなく
  - 知性と心を持って「考える」

【2】 パウロのよろこび—あなたがたのことを思うたびに—

- ・パウロとピリピ教会の良好な関係
  - 囚われの身のパウロに対する信頼
  - エパフロディの派遣へ
- ・過去の楽しい思い出故の喜び？
  - パウロの第二次宣教旅行(使徒 16:12~40)の実際
    - 困り果て、晒し者にされ、鞭打たれ、不当に牢へ…
- ・宣教において結んだ実
  - 「ピリピにいるキリスト・イエスにあるすべての聖徒たち」(ピリ 1:1)
  - 「聖徒たち」(ハギオイ)：悪からの「分離」、神への奉仕のために分けられる
  - 「教会」：この世において、「神のものとされた民」(1ペテロ 2:9)

▷パウロはエペソ教会の聖徒を思うたびに、神に感謝し、喜びをもって祈っていました。

【3】 パウロの喜び

- ・ピリピの聖徒たちを通してあらわされる神の働きを見て
- ・神への愛が豊かにされるということ
  - 神をより深く知る者とされる
  - 何が神に喜ばれ、大切であるかを見分ける
    - 「純真で非難されるところのない者」になること
- ・パウロの喜び
  - 神にあって自分の置かれた状況を見た
  - 獄中さえ福音を弁明する機会と受け止めた
  - キリストにあって喜ぶことを選んだ

